

## 65期 テニスの集いin 蕨 2018

テニス参加者 浅倉英樹(4組)、内堀信(6組)、佐藤徹郎(7組)、関賢治(2組)、原田義則(3組)、布施修一郎(6組) 以上6名、 懇親会参加者 成澤文和(4組) 計7名

諸般の事情でひと月遅れの開催となり、シーズンは絶好の5月、13日の日曜日午前11時より、テニス同好会の春季の集いが行われた。

いつものように関君に無理を強いて手配してもらったオムニコートには、上記6名が揃った。昨年10月の軽井沢以来だが、常連の数名を欠いているのがいささか寂しく、空模様も気になる。

オープニングセレモニーの後、4ゲーム先取ノーアドの恒例に従って開始。全員が均等に10試合に登場する戦いは原田教授苦心の対戦表によるものだ。

珍しく静かに、時には緊張感さえ漂う中、熱戦が続く。結果は4-3が多く、どのカードも拮抗している。対戦者のほかは2名で、いつもよりハードなはずだが、粛々と進行する。

Around 70でも技量の向上や練磨は各人各様に、間々窺われる。随所でないのが程よい。

教授のノータッチエース、浅倉君のフォアハンドストローク、内堀君のバックハンドの切れ等々。正に「男子三日見ざれば…」と思わせる。

個々の努力以外にも、敵味方を問わず乱発される口撃が今日に限ってないことも要因とされ、コーチングの肝は褒めるにありという話に妙に納得してしまう。

とは言え、進むにつれて70歳の現実も。こちらは随所に顔を出し、耳を澄ませば関節から音が洩れてくる(コキコキ)。右にも左にもボールを追えるのだが、前後には殆ど動けない。苦笑と諦念、これもまた好し。心の欲する所に従えども矩を踰えず、気持ちはあるのだ。

14時を回った頃から雨が降り出し、14時半には無念の終了となったが、各々予定の70~80%は消化できたようだ。

運動の後は、亀の湯で汗を流す。サウナもある銭湯は広々として気持ちが良かった。

懇親会は16時から、蕨の会の成澤会長を迎えて始まった。会場はゆったりと大きく、飲み放題がついていて料理は質量ともに文句なし。おまけにお店からの差し入れまであった。

関君に感謝である。

酒杯が傾けられるにつれて楽しく和やかに、近況、予定、身辺の些事等を語り合う。

参加諸兄の健啖ぶりは驚嘆に値する。コースに従って次々に供される大皿を平らげ、少しも残すことがない。剩え筆者を小食と断じて非難するのだ。

したたかに飲み、且つこの食欲。摂取したカロリーは時に消費せねばなるまい。

テニスの集いはどうやら永遠の需要を得たようだ。永く無情の遊を結び、はるかなる雲漢に相期すこととしよう。

3時間は瞬く間に過ぎ、軽井沢での再会を約し19時散会。帰路、二駅乗り越してしまった。

(文責 佐藤徹郎)



試合開始前（左から 関、浅倉、布施、佐藤、原田、内堀）



初戦を終えて

雨が降り出し、予定を 30 分繰り上げて対戦終了



成澤君も加わった懇親会にて

